

会議録

会議の名称	令和８年度第３回新城市市民自治会議
開催日時	令和８年９月１６日（水）午後６時３０分から
開催場所	新城市役所４階会議室
会議の次第	１ あいさつ ２ 議題 市民まちづくり集会について ３ その他
欠席委員	楠委員

1 あいさつ

会長からあいさつがされた。

2 議題

市民まちづくり集会について

《事務局説明事項概要》

- ・ 前回は制度の存続については異論がなく、開催頻度、参加者、実行委員会の負担感、開催を次につなげていくことの4つが論点として挙げられた。
- ・ 運用への意見に対する整理について、市民自治会議は、新城市自治基本条例の実効性を確保するための機関と位置付けられており、実効性を確保するために制度を検討することは当然適切である。運用面に対しては、所掌事務として新城市自治基本条例の運用に関し意見を述べるものと規定されていることから、条例上想定されている。
- ・ 一方で、各制度では、実行委員会等市民で構成する機関が設置されている場合があり、各機関も一つの自治の形であることから、個別の運用についての意見は、程度や表現によってはその自治の否定となり、本末転倒な結果となる。運用に関して意見をする場合には、実効性の確保という観点から各機関の自治の否定にならない程度のものですることが良い。
- ・ 目的と手段の逆転やマンネリ化等があることから、年1回開催の仕組みを維持するべきかという課題がある。署名による開催の形もあるため、その場合との整理は必要になる。
- ・ 現在は、実行委員会がテーマや開催方法を決定し、その結果として参加した市民が気付きを得て帰るという制度設計で、具体的な開催の成果は求められていない。市内部での開催成果を配布したが、内容は薄い印象を受ける。必要性・目的があるときの開催とすると制度趣旨は大きく変わり、市長や議会が政策判断に必要な情報を得るための規模の大きなアンケートの意味合いが強くなり、開催成果も市長や議会の判断材料の意味合いが強くなる。正確な情報を市民と共有するための制度としては、どちらも変わらない。
- ・ 開催までの経過を考えると、現在は、テーマから開催方法まで実行委員会で検討をしており、テーマ選定も自由であることから、市民目線である反面成果からは遠ざかる。必要性・目的がある場合の開催は、テーマは市側で選定して方法を実行委員会が定めるもので、成果には近づくが市民目線からは遠ざかる。
- ・ 必要性・目的がある場合の開催は市長・議会として必要な場合のため、正確な情報共有と具体的な開催成果を期待したもので、市民の動きのきっかけの意味は副次的な目的となる。毎年開催の場合は、市長・議会の目的・必要性を必要としないため、正確な情報共有とその後の市民の動きのきっかけを期待したもので、市の政策の判断材料的な意味は副次的な目的となる。実行委員会も在

り方が変わる。どちらにも長所・短所があり、価値判断である。 ・ アンケート結果、参加者数、費用、市側の成果等の資料を参考にしながら毎年開催の是非について検討してほしい。 ・ 参加者については、若い世代が少なく、新規の参加者が少ない現状がある。新規の参加者や特定の世代を狙った内容とするべきか、狙うとしてそれは現実的なのか。 ・ 実行委員会の負担については参加者が関連するが、準備の負担が参加者数に反映されないことによるもので、参加者と関連して検討されるべきものである。 ・ 最後に開催後の成果について、参加者側の成果と主催者側の成果に分けて考えることができる。参加者側の成果としては、参加者が家に帰ってから次につなげていくことだが、その成果については少なくとも確認できていない。時間経過が必要な場合もある。参加者側の成果に主眼を置いた開催方法とすることも考えられるが、具体的にどのような方法なのかは分からない。運用上の工夫という範疇を出ないのではないか。 ・ 主催者側の成果として、現在の方法であるグループでのワークショップ形式はグループ内で完結してしまい、主催者側に成果が残りにくい。運営上の工夫である程度は対応できるが、時間、資材等の制約があるため限界はある。主催者側の成果に主眼を置くと実行委員会の主導権は弱くなり、中立的な役割となる。 ・ 参加者、実行委員会の負担及び開催後の成果の3つは、運用面での課題であり、かつ、開催頻度の結論次第で検討の方向性が大きく変わる。まずは、開催頻度について結論を出し、それから3つの課題について検討を行いたい。	
--	--

《質疑応答・意見交換》

会長	ありがとうございました。 論点が4つありますが、今日は開催頻度を中心に議論をし、時間があるようでしたら別の論点に進みたいと思います。 では、開催頻度について御意見ありましたらお願いします。
委員	現役の実行委員の方にお聞きしたいのですが、テーマ決めは大変ですか。
委員	テーマ決めは難航します。1回では決まらず、どうするどうするという状態になります。
委員	与えられたテーマの方がやりやすいですか。
委員	昨年度の公共施設は提案があつてのものでしたが、与えられたものの方が明らかにやりやすいです。
委員	今の話を聞くと年に1回よりも必要に応じて開催する方が良いと感

	じました。
会長	ほかにかがでしょうか。
委員	開催頻度は、実行委員会の負担の話とも絡んでくると思います。テーマ決めについては自分たちで考えることが大変であれば事務局側が候補を出せばそれなりに進みやすいとは思いますが、市民がどれだけ興味があるかということもあります。 毎年の開催に賛成ですが、市民が市政を知る機会としては良いと思いますし、議会と行政が出てきますので、人と考えを知ることができますので、結論が出ないとしてもそういう意味があると思っています。ワークショップ形式が良いかは別ですが、話をする中で普段見えないものが見えることは良いことだと思います。
委員	開催頻度としてはできるだけ年1回開催する方が良いと思います。実行委員会でのテーマ選定の大変さについては、代表区長会議がありますのでその中で候補を出すよう連動させていけば実行委員の大変さは減ります。それも1つの方法です。内容によっては全世代を対象としないようなものでも良いと思います。 公開政策討論会の年にはそれをテーマにするようなこともできますし、せっかく今まで年1回開催をしていますので、続けていく方が良いと思います。
委員	私は年1回よりも、サイクルの期間を長くして2年や3年に1回として、その間に市民にテーマを決めてもらえるようなアンケート等をして、毎年開催するよりも大きなテーマで充実した集会を開催する方が効果的かと思います。 期間を空ける中で、前回の開催からの経過をほのか等で市から報告するようにしていくことが、成果が繋がっていかないことに対する、成果ではなくて良いので現状の報告はほのか等で良いかと思います。
委員	現状を考えていくと、2年や3年に1回とすると開催頻度はすごく減っていくため継続していく方が良いと思いますが、今の形式を続けていくとするとマンネリ化や情報共有の課題があると思いますので、内容を、例えば講演で地域自治の話に還元するような、条例の目的とは合わないのかもしれませんが、そこをクリアすれば人が集まる機会ができ、話を聞くというテーマも生まれてきますので、負担としても良いかなと考えます。
委員	実行委員会に参加している立場からすると年1回開催は苦しいものがあると思います。テーマが出てこないため、手段と目的が逆転することとなり、根本的にここが一番大きいのかなと思います。また、議会

	や市長部局からテーマの提案をもらうということも考えられますが、テーマがありさえすれば良いというものではなく、今までの開催実績からしても新庁舎建設やこども園のような関心のあるテーマでしか人が集まっていないということが現実ですので、テーマが出せば良いというものでもないということも1つの難点になると思います。
委員	今の話に関連して、市民まちづくり集会は、一堂に会する中で市民が気付きを得て地域に戻って行動を起こしましょうという意味で始まりましたが、今は10の自治区に各地域協議会がありますので、気付いた人は地域協議会に持ち帰って活動をされていると思います。今、市民まちづくり集会に求められているものは、自分たちだけでは何ともならない庁舎問題や子育て問題のようなものには関心があるようですので、そういった必要なときに開催する、テーマを何にするかではなくこのテーマがあるから開催しなければいけないとなったときに開催することが一番良いと思いましたので、必要なときと発言しました。
委員	その通りだと思います。必要なときのテーマであれば人は見ますが、自分の周りのちょっとしたことのようなテーマでは関心がありません。昨年度が公共施設でしたが、何年か前にも公共施設の回はあって、そのときはもう少し人が来ていました。やはりマンネリ化、市民まちづくり集会に関するマンネリ化みたいなものも多少あるのかなと思いますので、4年に1度や3年に1度で、市長選や市議選があるときに開催をして次の市長に期待することを共有するようなことをしても良いと思います。色々な形がありますので、これが正解ということではありませんが、皆が興味のあるときに開催をすることが効果的だと思います。
会長	事務局に質問ですが、必要なときに開催とする場合の必要なときは誰が判断するのでしょうか。
事務局	現在の制度では市長と議会が開催できるようになっていますので、市長部局として、議会として必要性を判断することになります。議会から市長部局への開催の提案ということも考えられます。
会長	市長と議会と両者の同意がある場合でしょうか。
事務局	現在の規定では、単独開催も共催もできることになっています。そこは規定の仕方次第です。
会長	私のイメージですが、行政主導での開催に違和感がありますので、例えば1つの案として市民自治会議で検討するようなことにすれば市民主導の形になります。その場合に必要なときを判断するのは難しいところです。

	整理します。 毎年開催の方は、市民での議論は大切であり、テーマについては大小色々ある中で選定していくことになります。必要なときの方は現実に即するもので、実行委員会の負担や市民の関心を考えると2年や3年に1回や大きな関心があるときにすることでマンネリではなく実効性のあるものとなります。 どちらにも説得力はあります。中間的なものは2年や3年に1回の選択でしょうが。 ほかに御意見いかがでしょうか。
委員	この話に正解はないと思います。 これまで継続されて来ていますが、マンネリを感じているのは長く関わっている人であって、全然関わっていない人は大勢おられます。そういう方たちにどうやって情報を提供して参加にもっていくのかということが自治の肝要なところだと思います。まだやっていないことはあるのですが、今のメンバーだけで進めていくことは厳しいと思います。 記述式のアンケートはほとんど書かれませんが、関心の高い方は書きますが、その方たちは同じ顔ぶれです。テーマを検討するためには、選択式のアンケートにして事務局や経験のある方を中心にある程度選別していく必要があると思います。 先程代表区長会議の話がありましたが、行政と関わりをもっている方たちはテーマを見つけやすい実態はあると思います。自分に関わりのある分野の影響は大きいので、市民自治会議においてもそれぞれの分野の意見をいただくことでテーマの選択は広がっていきます。ただ、骨格の部分は事務局からある程度の方向性の誘導は必要だと思います。 現在も継続ができていますので、もう少し継続してみる必要はあると思います。実際に関心のあるときに人は集まりますが、関心のないときにどうしたら良いのかと考えることが市民自治会議なのかなと思います。正解がない中で議論することが正解に近づく大切な要素だと感じました。
委員	実行委員として数年参加していますが、毎年テーマを決定するまでが苦しいと感じています。また、委員の平均年齢が下がって質が下がっている感じがしています。若返りは良いことだと思いますが、知識不足が出ていますので、その側面からは年に1回開催するよりも何年かに1回開催する方が質は高くできると思います。

	ただ、数年に1回に減らしていくとうまくいかなかったときに消滅していつてしまうように思いますので、できれば頑張り続ける方が良いのかなと思います。
委員	今の年齢層はどうなっていますか。
委員	高校生が3人、大学生が1人、20代が1人、少し上の世代が1人の構成です。委員長は高校生です。
委員	丸投げをせずに方法を決めていかないと若い子の負担になってしまいますので、知恵を出す中年層から上の人が必要ではないかと思います。
委員	今年度は事務局が大きく助けを出しています。
委員	今の実行委員会の構成はそのようなものですが、私たちのころは年齢層が高かったです。どんどん下がってきたのであって、初めから若い子ばかりではなく、むしろ若い層はいませんでした。
事務局	少し前までは70代・80代の方がおられましたが、高齢者の方が少しずつ引退されて今の構成になりました。
委員	公募ですか。声をかけられますか。
委員	公募です。
委員	けれども声をかけられますか。
委員	言われることはありますが、自分の意志で参加はしています。
委員	私は実行委員会に参加したことはありませんが、市民自治会議の委員は実行委員会に入れませんか。
委員	入れます。
委員	若い世代が多いことは、若者議会と関連がある気がします。若い世代が興味を持ってやってもらえるのであれば勉強もしてほしいと思います。例えば、折衷案的に2年のうち1年を勉強の時間に、もう1年を準備とするような、それがいいのかなは分かりませんが。 ルーティーンで開催していかないと消えていくと思いますので、条例を変えるのであれば2年や3年として、必要なときとするとそれがいつかということになるため、条例に書くことはできないと思います。 テーマをどのように決めていくかという過程を考えていかなければいけないと思います。
委員	必要なとき・目的がある場合にすると、議会や行政の担当部署の課題がテーマで、主導権もそちらになり、住民の意見は入りづらくなります。2年に1回や3年に1回としても準備自体は変わらず、期間を長くすれば良いテーマが設定できたり、参加者が増えたりするのか、間の1年は誰がどう活動するのか、ピン트가ぼけてしまう気がします。

	代表区長会議や地域協議会で出された課題を整理して実行委員会での意見も含めてその中からテーマを選定すれば負担は減ると思います。 アンケート方式については、選択式では回答がありますが記述式では一部の方しか記載がないことが実情ですし、全市民に対するアンケートでは配布も回収も大変ですのでアンケート方式でのテーマ決めは厳しいと思います。 年1回の開催を事務局である程度テーマを絞り込んだ中で実行委員会で検討し、翌年度のテーマを決めて中立性や公平性を保つための運営方法を考えてもらうようにするとやりやすのかなと思います。
会長	実行委員は今何人ですか。
事務局	6人です。
委員	少ない。
事務局	昨年度は9人でした。今年度も公募をしましたが、今年度は新規の方は0人でした。昨年度の方に継続をお願いして6人の方に残っていただきましたが、3人は減りました。今の高校生が進学や就職などで抜けることになると3人に減ります。 公募は厳しいところがあります。
委員	先にテーマを決めてから実行委員を募集する方法はどうでしょうか。先に決めるテーマについては公募をする必要がありますので、テーマ決めのための期間を設けてテーマを決定し、その後にテーマに興味のある人を実行委員として募集をすればそれを目的に集まる人ですのでテーマ決めの負担はなくなります。それであれば毎年開催はできると思います。
委員	その意見には賛成ですが、質の高い年に1回が理想ですので、実行委員ではありませんので、これまで実行委員をされた方の意見を尊重したいと思います。 これまでの課題は参考になりますし、経験になりますので年1回の開催は良いとは思いますが。今の意見は良い意見だと思いました。 実行委員をされた方の意見を尊重します。
会長	テーマを先行させると委員への応募が1人もないことも想定されますがその場合はどうしますか。
委員	それは女性議会や若者議会から。いや、それだと実行委員会自体が成立していないということになりますね。
会長	公募に手が挙がらなかったということは、誰も関心がなくてやりたくもないということです。また、やりたくない人にやらせるというわけにはいきませんので、そのときは開催しないということで理屈の上

	では良いと思います。ただ、条例上は年1回以上と書いてありますので開催しないといけません。
会長	少しまとめます。 テーマを先行させる場合は、実行委員への応募が0の場合を考えると条例を改正する必要があります。 次は、現状の制度を維持するものです。 3つ目は、2年や3年に1回とするものです。この場合には条例を改正する際に附則で5年後にもう一度見直すというようなこともできます。 4つ目は必要なときの開催とすることです。
会長	1つ気になったことがありますて、このような公募の現状を考えると実行委員会・制度に持続可能性があるのでしょうか。誰もいなければ意味がありませんので。 ボランティアでしたか。 少し謝礼がありましたか。
委員	少しあります。
会長	ボランティアに近いようなということですかね。
委員	テーマ先行の話ですが、4月にテーマ決めから始めると年末が過ぎてからの開催になってしまいます。テーマを考えることはすごく難しいですので、テーマを決めることに1年を使い、次の年に実行委員会の募集からということになる気がしました。
委員	今年のテーマは決まっていますか。
委員	決まっています。
委員	今年度の準備と並行して検討をしては。
委員	誰が決めるのですか。
委員	そうすると義務感で検討するだけになります。
委員	テーマ選定の候補を代表区長会などから挙げては。ですが、それを挙げてからの検討では厳しいかもしれませんね。
委員	テーマが決まっている方が楽ですが、一から創り上げていく方が良いのかなとは思います。
委員	候補の中から選ぶ方法も自分たちで考える方法もありますが、それは選ぶ方でも良いですか。
委員	候補が与えられればですが。
委員	その中から選択するような方法は。
委員	少なくとも今の実行委員会の構成では無理です。若すぎるので。
委員	委員は公募ですので思いがあって公募したものと思いますが、それ

	が持ち寄られて意見にならないのですか。
委員	少なくとも自分については、特定の分野に関心があって参加しているわけではなく、まちづくりというものに対する熱量や延長線で参加していますので、特定のテーマをやりたいというものではありません。
委員	活動内容と参加した際のイメージにずれがあるということですか。
委員	活動内容とイメージは合いますが、こういった議論をする場は嫌いではないので参加しているという感じです。特定のテーマがあって参加しているわけではありません。 そういう人が少なからずいるのではないかと思います。
委員	自分も特定のテーマに興味があって入ったわけではなくて、勧誘されて入りましたので、目的意識の乖離を起こしていると思います。
委員	現状の流れからすると、特定の議論をしたいと入ったとしても、壁があると思います。
委員	何度か質の高いまちづくり集会という話が出ていましたが、何によって評価されるのでしょうか。 自分の知る限りK P Iは回数と参加人数です。回数に至っては年1回以上の開催となっていて条例の規定のままです。もう1つは参加人数ですので、人の集まるテーマを選定せざるを得ません。このままK P Iを参加人数でいくのであれば、テーマの候補を出されても簡単なものにもっていかざるを得ません。 テーマが決まったところで解決するとは思えません。
委員	実行委員はボランティアに近いという話でしたが、若い人に実行委員になってもらうには、何らかの資格取得ができるような、スキルアップができるような実行委員の集め方をしないと集まらないのではないのでしょうか。そういう方が育ってくれることが将来的に大きな力になると思います。委員になる魅力を見つけてあげることが大事ではないかと思います。
委員	委員は、若い子である必要性はありません。皆さんが参加しても良いです。実行委員を一度やってみてください。 今のメンバーに若い世代が多いだけで、以前はベテランが多くいました。来年参加してみただけであればいいと思います。
委員	そうですね。
委員	非常に刺さる言葉です。 ほのかやホームページやLINEで公募されていますが、振り返ってみると仕事や家庭で余裕がなかったため参加はできませんでした。公募に対する応募はよほどの志や目的がないとありませんので、公募

	には限界があると思います。
委員	実行委員会は公募でなければいけないのですか。 市民自治会議は公募以外にも委員がありますが、そこをクリアできればもう少し楽になると思います。 すごく高い意識を求めることは厳しいと思います。そこが改革できれば近道になるのではないのでしょうか。団体や経験者から集めることができれば様々な年代からの参加があるでしょうし。
委員	作為的に選べれば目的と手段の逆転も防ぐことができたり議論も活発化したりすると思いますので、若い年齢層も必要ですが、上の世代の方も必要かと思います。
事務局	委員については規則に規定があり、学識経験者、団体推薦、公募市民、自治基本条例第9条に規定する協力者となっています。
委員	団体推薦を活用していくことが近道になると思います。
委員	それがクリアできれば年1回でも問題はなさそうです。
委員	現役世代の人が公募で手を挙げることは厳しいと思います。
委員	今までの話を聞いていると実行委員会の構成は負担が大きい感じを受けました。市民自治会議も公募が主でしたが団体からの推薦が多くなりました。その善し悪しは分かりませんが、そのような形は1つの手段としてあります。 八名でできた労働者協同組合や千郷のまちづくり会議のようなところから出してもらうような手もあると思います。
会長	実行委員会の構成の持続可能性としてはクリアできると思います。後は、マンネリ化の話ですが、この議論ではその話には対応できません。結局、参加者が来なかったという話になりますので。
委員	まちづくり集会は結果を求めず参加者の中の結論で良いというところから始まりましたが、数字を言われてしまうということですか。
委員	言われてはいませんが、少なくとも今の評価指標としてはそれしかありません。ですので、暗に参加者をどうするかという議論が出ます。
委員	K P I
会長	それは庁内ですか、庁外ですか。
委員	実行委員会内では参加者をどうするかという議論が中心となります。
委員	少子高齢化や人口減少の中で参加者を増やすのは難しいところがあると思います。そこを求めることはまちづくり集会としてはもってのほかなところですので、そこは気にしてはいけません。
委員	ただ、見えるものは数字しかありません。

委員	質の良いまちづくり集会の質とは何をもって言われているのかが気になりました。
会長	K P I の話と目的の話は別の話だと思います。
委員	ただ、少なくとも実行委員会の中では、参加者数の話が出ているのは事実です。
委員	K P I の話は、行政としての評価指標ですので、予算を付ける上で議会からの質問に対して数字として答えられるものがないということで行政側から出てくることは当然だと思いますが。
会長	それは当然の話だと思います。
委員	K P I の話と趣旨の話は直接関係ないですね。
会長	ただ、先程出た質の話は一番大切だと思います。
委員	K P I と趣旨の話はもちろん理解しています。実際の実行委員会では参加者の議論が出ます。話を深掘りして難しくすると参加者が来なくなってしまうのでは等の意見は出ます。明文化されていなくても参加者数は暗に実行委員会の中にあります。
会長	質の良いまちづくり集会とは何かという話からいくと、少人数でも満足度が非常に高いということと大人数が参加することのどちらが良いのかということはありません。
会長	時間も経過しましたので、事務局の方で今回の議論をまとめていただけますか。 現状維持の案、テーマ先行型、体制、2年や3年に1回の案や必要に応じての案などが出ていました。
委員	実行委員会との関連もあると思います。そことセットにしていかないと良くないと思います。まとめるにしても。
会長	この話は最終的に多数決で決める案件ではないと思いますので、話をまとめていただいて議論をしたいと思います。
会長	ありがとうございました。それでは本日の会議を終了します。

3 その他

次回の会議日程

11月16日（月）

閉会（19：55）